

アメリカオオアカイカ 東部太平洋

Jumbo Flying Squid, *Dosidicus gigas*



管理・関係機関

ペルー政府 (ペルー 200 海里内)

利用・用途

味噌漬・モロミ漬け、塩辛、さきいか、くんせい、天ぷら・フライ、カップ麺用のフリーズドライ、イカリング

最近一年間の動き

FAO 漁獲統計によると、2010 年の全世界のアメリカオオアカイカ漁獲量は 78.7 万トンとなり、そのうちペルーとチリがそれぞれ 37 万トンと 20 万トンの漁獲を揚げた。本種の総漁獲量は、頭足類の中で最大の漁獲を維持した。2009 年の 8 月頃から中規模のエル・ニーニョ現象が発生し、その後の強いラ・ニーニャ現象の発生など、2011 年初頭にかけての大きな海洋環境の変動によって沿岸・沖合の漁獲水準は低下する結果となった。このため、ペルー政府は 200 海里内の外国船の操業条件を離岸距離 20 海里から 80 海里の沖に制限し、沿岸零細漁民を優先する施策を執り始めた。さらに、近年の本資源の世界的な需要の高まりからアメリカオオアカイカは国際原料となり、日本はもとよりペルー沿岸での浜値の変動に大きく影響を及ぼすようになった。このような背景からペルー政府は浜値の低下に不満を持つ零細漁民対策に窮することになり、2011 年 7 月、新しい大統領が就任し、同年 10 月、アメリカオオアカイカの漁業管理規則に係る新大統領令が交付され、入漁許可に関して従来の省令に加え、価格競争入札を導入することが決定された。しかしながら、その後も、入札等に係る制度が確立せず、2012 年 1 月以降、当該水域での操業ができない状態となっている。

漁業の特徴

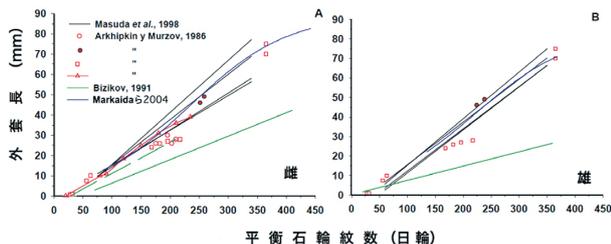
我が国は、1989 年頃からメキシコ 200 海里内で釣り操業を開始した。その後、ペルー 200 海里内で高密群が発見され、1990 年から漁船 40 隻余りが同海域に出漁し、各年 4～8 万トンを漁獲した。また、1996 年からペルー海域は一時不漁となったが、コスタリカ沖で新漁場が開発された。2002 年以降、我が国は主としてペルー海域で操業している。主な漁業国は、ペルー、チリ、メキシコなどでほとんどが小型漁船による沿岸零細のいか釣り漁業ある。近年はペルー沖やチリ沖の公海において中国船を主体とする外国いか釣り漁船による操業が増加している。

漁業資源の動向

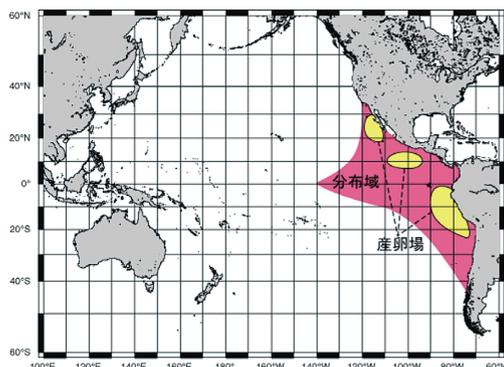
漁獲量は 1992 年に約 11 万トンに急増し、1998 年を除いて 2003 年までは 13～40 万トンを維持し、2004～2010 年にかけては毎年 60～80 万トン前後が漁獲され、頭足類中で最大となった。海域別に見ると、ペルー海域 (チリ沖も含む) では 2002～2006 年に我が国、韓国、中国、チリ及びペルーが計 30～70 万トンを漁獲し、カリフォルニア湾では 1996・1997 年及び 2002～2004 年にメキシコが約 10 万トンを漁獲した。我が国は 2000～2002 年にペルー海域、コスタリカ沖で年間約 6～8 万トンを漁獲した。しかし、2006 年以降には入漁隻数が 4 隻程度となり、さらに 2011 年にはペルー領海内での操業海域を 80 海里以遠に制限されたことから漁獲量は 0.7 万トンに減少した。

生物学的特性

- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 4～5 か月 (中型)
- 産卵期・産卵場：周年、カリフォルニア～チリ沖の湧昇域
- 索餌期・索餌場：周年、カリフォルニア～チリ沖の湧昇域
- 食性：プランクトン、魚類、いか類 (共食い)
- 捕食者：キハダマグロ、いるか類、マッコウクジラ等



アメリカオオアカイカの成長 (酒井・若林 2010)



アメリカオオアカイカの分布図

資源状態

ペルー海域では 1991～1995 年は好漁で、1994 年には総漁獲量が 20 万トンに達したが、1996 年から漁獲量・CPUE が減少した。前者の漁期は、エル・ニーニョ傾向の温暖期で、後者の漁期はラ・ニーニャ傾向の寒冷期であった。このため、1996 年漁期の不漁の原因として、海況（ラ・ニーニャ現象）と乱獲の両方の可能性が考えられた。1997/1998 年には大規模エル・ニーニョが発生したが、好漁にはならず、引き続き不漁であった。2000 年以降は好漁に転じ、資源水準は高い値で推移している。なお、ペルー政府は 2008 年の資源量を音響調査により 300 万トンと非常に大きく見積もっている。日本漁船のペルー 200 海里内での操業による CPUE の変動を見ると一時的に 2007～2008 年にかけて減少が見られたものの、2000 年以降では月ごとの変動をしながらも比較的高い値で推移してきた。しかし、2010 年から日本漁船の CPUE の減少が観察された。この減少はペルー沿岸零細の釣り漁業の CPUE（トン/出漁回数/船）でも観察された。しかし、2011 年中頃から CPUE 水準は回復し、2012 年 1 月以降にさらに増加して資源は高水準となった。

管理方策

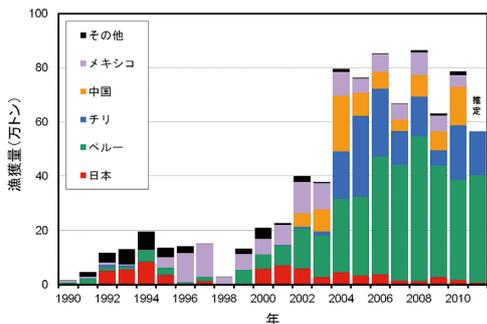
音響調査を含む資源調査を考慮しながら、プロダクションモデルによって算定された MSY を基に漁獲割り当てを決定する。
 外国漁船の 80 海里までの入漁制限（2011 年）、外国漁船の入域停止状態で新たな入漁施策の検討中（2012 年）。

資源評価まとめ

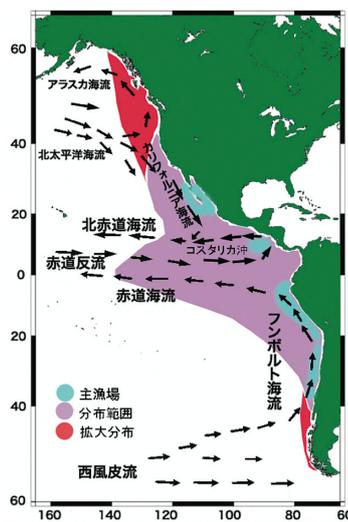
- ペルー沿岸漁業及び沖合の外国いか釣り漁船の漁獲データに基づきペルー研究機関がプロダクションモデルによって EEZ 内における現存量（2.51～2.96 百万トン）と MSY（85 万トン）を算出した。
- 資源水準は中位から高位に移行した。

資源管理方策まとめ

- 2012 年のペルー EEZ 内における漁獲割り当ては 50 万トンであるが、外国漁船への入漁許可が出されていない。

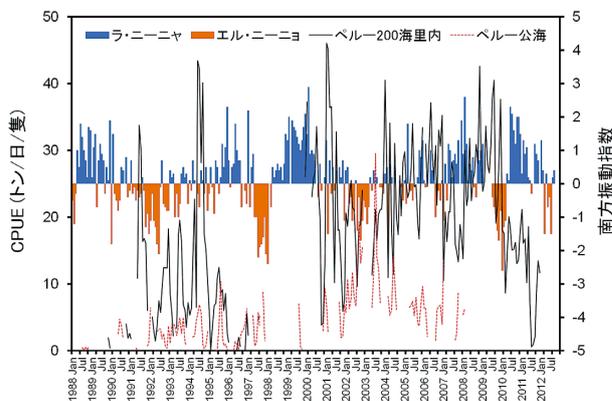


アメリカオオアカイカ国別漁獲量（データ：FAO 2012）



アメリカオオアカイカの分布と主な海流

■の範囲はかつて報告されていた本種の分布範囲（Nesis 1983）
 ■は最近年に分布拡大したと思われる範囲（Hatfield and Hochberg 2006）。■は主漁場。



日本のいか釣り漁船によるペルー海域（200 海里内及び公海）におけるアメリカオオアカイカ CPUE（トン/日/隻）の月別変化及び南方振動指数の月別変動

アメリカオオアカイカ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	高位
資源動向	増加傾向
世界の漁獲量（最近 5 年間）	63.1～86.4 万トン（全域） 平均：76.0 万トン（2006～2010 年）
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	0.7～2.7 万トン（ペルー海域） 平均：1.6 万トン（2007～2011 年）